

道徳的価値を自分のこととして捉え、考えを深められる児童の育成

—体験活動等と関連付けた指導の工夫を通して—

みなかみ町立桃野小学校 小倉直美

I テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成 29 年 7 月）において、第 2 章第 2 節 2（3）では「道徳的価値の理解は、道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解することが求められる」とされている。また、第 4 章第 1 節 3（4）では、「集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの道徳性を養うための体験活動と道徳科の指導の時期や内容との関連を考慮し」と示され、各教科、体験活動等との関連する指導を工夫することが求められている。

研究協力校の第 6 学年の児童は、道徳科の授業においては、考えたり思いを交流したりすることはできているが、自分のこととして捉えにくい内容項目については、思いや考えをもつことが難しい一面が見られる。そのため登場人物の心情の読み取りや教材の感想に終始してしまったり、観念的な理解に留まり、理想的な発言になったりすることがある。

そこで、各教科での体験活動等や学校行事と道徳科の内容項目を関連付けて指導をすることで、道徳的価値を自分自身のこととして考えやすくなると考えた。そして、体験活動等の際に関わった地域の方に道徳的価値に関わるインタビューを行い、撮影した動画を活用することで、地域の身近な大人の意見に触れ、考えを深めることができると考えた。

II 実践例

1 主題名 ほこりある郷土 内容項目C-（17）伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

教材名 「天下の名城をよみがえらせる—姫路城—」（出典：「小学道徳 生きる力」日本文教出版）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たし、生きる上での精神的な支えとなるものである。小学校高学年では郷土から国へと視野を広げ、国や郷土を愛する心を持ち、よりよくしていこうとする心情を育成することが大切である。本時では、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術等を大切に、それらを次代に引き継ぎ、発展させていこうとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態（6年生 男子11名 女子14名 計25名）

児童たちは、これまでに地域のお祭りに参加するなど地域に愛着をもって生活している様子が見える。また、これまでの学習や経験を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産にも目を向けられるようになってきている。一方で郷土への関わり方は受け身であり、尊重する態度については十分であるとは言えない。

(3) 教材について

本教材は、平成の修理を終えた現在の姫路城を見つめるひろみと祖父の会話で始まる。同世代のひろみが登場することで、感情移入しやすく共感しやすい構成となっている。また、事実に基づいた話であるため、児童は興味をもって読み進めていくであろう。

祖父の語りから姫路城の美しい姿を守り続けた先人の苦労や努力に目を向け、自らも継承していこうと願うようになったひろみの姿を通して、先人が残してくれた郷土や我が国の伝統文化を後世に残すために大切にしようとする気持ちを高めていきたい。

3 ねらい

祖父から平成の修理についての語りを聞いたひろみや姫路城に関わった人々の思いを考え交流することを通して、先人の努力を知り、郷土や我が国の伝統文化を受け継ぎ、大切にしようとする心情を育てる。

4 展開

時間	学習活動と発問 ○発問◎中心発問◇補助発問☆ICT活用	・児童の反応	◎テーマに関わる手立て ○支援及び指導上の留意点
導入 8分	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ☆総合的な学習の時間で見学に行った矢瀬公園遺跡の画像を電子黒板で見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・珍しいから大切だと思った。 ・古いからじゃないかな。 ・そうか、矢瀬公園も受け継がれたものだったな。 ・身近なところにもあるな。 	◎史跡見学の様子を電子黒板に提示することで、自分の暮らす地域にも受け継がれてきたものがあることを思い出せるようにする。
めあて：地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう。			
展開 ① 8分	2 教科書の教材文の範読を聞き、内容を捉える。 ○地域の方は姫路城のどのようなところを自慢に思っているのでしょうか。 ○姫路城に関わった人はどのような人がいますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいなところだと思う。 ・苦勞して修理したところじゃないかな。 ・姫路城を建てた人 ・和田さんや加藤さん 	○教科書の場面絵を提示し、教材文の内容を捉えられるようにする。
展開 ② 10分	3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ◎和田さんと加藤さん、ひろみさん、おじいさんはそれぞれ姫路城に、どのような思いをもっていましたか。	<p>【和田さん・加藤さん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対にあきらめないぞ。 ・修理に関わって嬉しい。 <p>【ひろみさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路城を大切にしたい。 <p>【おじいさん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろみさんに姫路城のよさを受け継ぎたい。 	○個人で考えてからペアで話し合わせた後に全体で共有することで、より多面的・多角的に考えられるようにする。
展開 ③ 14分	4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 ☆史跡ガイドさんからのメッセージ動画を視聴する。 ○私たちの地域でも大切に受け継がれてきたものがあるのはなぜでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路城と同じで、矢瀬遺跡を残そうとした人がいたのだな。 ・どんな文化財にも関わった人が大切に残したからだろう。 	◎史跡ガイドさんの考えに触れることで、思いや考えを深められるようにする。 ○考えをペアやグループで交流することで、多くの考えに触れられるようにする。
終末 5分	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや考え方を振り返る。 ○これまでの自分はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が関わり守ってきたので、他の人にも教えたい。 ・今までは考えたことがなかったけど、大切にしていきたい。 	○話し合った内容と、これまでの自分の生活を振り返り、今後の生活に結び付けて考えられるようにする。

5 授業記録

体験活動等の映像資料の活用（導入）

導入では、矢瀬公園遺跡見学の画像を電子黒板に提示した。矢瀬公園遺跡内で地域の方に説明を受けている様子や見学した住居跡の画像を見ることで、自分たちの地域にも文化遺産があり、誇れるものであったことを想起できるようにした（図1）。

体験活動等の映像資料の活用（展開）

展開後段の道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える場面では、「地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう。」について考えさせた。その際に歴史ガイドさんの言葉を手掛かりにして考えられるよう、インタビュー動画を視聴させた（図2）。「地域の人たちが大切にしたいと思ってきたから受け継がれてきた。」「次の世代の人たちに受け継ぐため。」「歴史があって、いろいろな人たちが残したいと思ってきたから。」などの記述が見られ、地域の文化遺産は、多くの人々が関わって大切に守ってきたことや、その思いに気付くことができた。「昔の人たちが今までずっと守り続けてきたものを自分たちの代でなくすわけにいかないと思う。」と、自分のことと関わらせて考えていた。



図1 映像資料を見ている児童の様子



図2 インタビュー動画を視聴している様子

表1 抽出児童の考えの変化

	導入でのめあてに対する考え	めあてについてもう一度考える場面での考え	本時の振り返り
児童A	歴史があるから大切にされている。	昔の人が大切にしてきたものだから、自分も大切にしようと思った。	文化遺産だから大切だと考えていたけど、たくさんの人たちが大切に思ってきたものだから自分も大切にしたい。
児童B	ここにしかない、珍しいものだから大切だと思う。	いろいろな人たちが残そうとした気持ちがあったから受け継がれている。	受け継ごうとか、地域のものという意識がなかったけど、これからは地域のものを大切にしたい。

III まとめ

道徳的価値について問題意識をもたせる場面では、体験活動等の映像資料を活用して、本時のめあてについて考えさせた。体験活動等の画像を見て「矢瀬公園遺跡は珍しいから。」「古いから大切にされている。」と自分の体験を想起して全員の児童が考えをもつことができた。

めあてについてもう一度考える場面では、体験活動等の映像資料を活用し、地域の人材である歴史ガイドさんのインタビュー動画を提示した。身近な大人の自分たちへメッセージに触れさせることができ、児童が自分自身に関わることとして考えさせることにつながった。地域の文化遺産である矢瀬公園遺跡も、姫路城と同じように大切に受け継がれてきたことへの記述や、多くの人々が関わって残そうとしてきたことへの記述が見られた。振り返りでは、地域の文化遺産に対して「受け継ごうと考えたことはなかったけど、自分たちも受け継いでいきたい。」「次の人にも伝えたい。」など多くの児童が地域の人の言葉を受けて考えられていた。

一方で、導入の提示資料が精選できておらず、資料の提示に時間が掛かってしまった。展開後段のインタビュー動画の提示においても、ねらいに即してより短時間に編集するなど、効果的な提示の仕方を検討しておく必要がある。また、話し合いを深める手立てとして、ICTを活用し児童の意見を共有するなど、短時間でより多くの考えに触れるための工夫を行うことにより、全体での交流が効果的にできたのではないかと考える。今後はICTの活用に加えて、自分のこととして考えた後に、共感した友達の考えはどのようなものか、自分にはなかった新たな考えはどのようなものか、など視点をもたせた交流の工夫をしていきたい。